

第4回 建物・構築物検討会 議事録

1. 開催日時：平成15年 9月29日(月) 10:00～12:30

2. 開催場所：日本電気協会 4階 C・D会議室

3. 出席者:(順不同,敬称略)

- 委員：久保主査(名古屋工業大学),北山副主査(東京都立大学),齋藤幹事(東京電力),小笹(北陸電力),細川(四国電力),三代(中国電力),上妻(九州電力),伏見(日本原子力発電),野口(電源開発),福島(鹿島建設),須原(清水建設),森山(大成建設),朝倉(日立),中島(東芝),北田(NUPEC) (計15名)
- 代理出席：東海林(東北電力・石原代理),島本(中部電力・尾之内代理),尾崎(関西電力・村上代理),大須賀(大林組・清水代理),神地(竹中工務店・石崎代理),益田(三菱重工・福西代理) (計6名)
- 欠席者：斎藤(北海道電力),野田(東京電力),土井(新潟大学)(常時参加) (計3名)
- オブザーバ：土方(東京電力),中山(関西電力),室田・北村・秋田(日本原電),原・松尾(鹿島建設),西山(大成建設),平井(東芝),高山(三菱),本橋(東電設計),松本(清水建設) (計12名)
- 事務局：肥後・福原(日本電気協会) (計2名)

4. 配布資料

- 資料 No.4-1 第3回建物・構築物検討会議事録(案)
- 資料 No.4-2 建物・構築物検討会 委員名簿(案)
- 資料 No.4-3 鋼板コンクリート構造耐震設計技術指針(仮称)(案)
- 資料 No.4-4 鋼板コンクリート構造耐震設計技術指針(仮称)(案) 第3回建物・構築物検討会および第6回耐震設計分科会コメント対応方針案
- 資料 No.4-5 鋼板コンクリート構造耐震設計技術指針(仮称)(案) 建物・構築物検討会での主な審議事項(案)

5. 議事

(1) 建物・構築物検討会委員名簿変更案の紹介

資料 No.4-2 に基づき、事務局より前回耐震設計分科会以降の委員退任、新委員候補推薦の内容が紹介された。本件は次回耐震設計分科会で了承いただく予定。なお、齋藤幹事が退任されることにより、新たに土方氏(東京電力)に幹事をお願いすることについて久保主査より発議があり、反対意見なく了承された。

(2) 前回議事録(案)の確認

資料 No.4-1 に基づき、事務局より前回議事録(案)の紹介があり、原案どおり承認された。

(3) 鋼板コンクリート構造耐震設計技術指針(仮称)(案)について

資料 No.4-4 に基づき、尾崎氏・中山氏(関西電力)、北村氏(日本原電)、高山氏(三菱)より、前回の検討会および第6回耐震設計分科会におけるコメント対応方針について説明が行われた。審議の結果、以下の点について必要な資料修正を行った上で、10月7日開催予定の第7回耐震設計分科会に諮ることとなった。

資料 No.4-4 コメント 対応として、添付資料 の p.1 解説の下4行「一体型混合構造建物の耐震設計においては、...十分な安全余裕を確保する必要がある。」の文章が、後ほど引用される参考資料6の p.5 下2行「...場合には、当該RC構造耐震壁を無視...」の緩和事項を認める記述と異なったニュアンスを読者に与える可能性がある。整合がとれた表現に修正する。修正は、主査・副主査・幹事・関電で行う。

また、土井氏からの文書によるSC構造壁とRC構造壁との耐力分担率に関するコメントに対しては、参考資料6の p.5 下3行「...部分的な崩壊が起こるおそれのない場合...」との条件を示しており、RC構造壁の最低限の安全性を確保する旨の規定が盛り込まれているため、分担率に関する定量的な規定は設けないこととする。

資料 No.4-4 コメント の建物と機器のインタラクションについては、次の二案を併記し次回の分科会に諮る。

案1：p.2とp.4を一緒にし、指針の巻頭に追加する。

案2：添付資料 -aの p.2『本指針の構成』を指針の巻頭に追加し、第 編と第 編の関係を図化した p.4は参考資料とする。

なお、p.4の図は『設計フロー』という名称ではなく、第 編、第 編、JEAG4601第6章の関連を示すものであることがわかるような名称とし、図の中で JEAG4601第6章「機器・配管系の耐震設計」がカバーする範囲を一点鎖線等で囲む。また、フローの注記(*1及び*2)は設計での取り扱いが明確になるよう修正する。

資料 No.4-4 コメント の添付資料 -bの追記箇所(下線部)について、告示501号及びJEAG4601に発行年度を表記しなくてよいか確認する。

資料 No.4-4 コメント のサポートの自由位置方式については、適用できる条件を絞ることで整理できないか、電力・メーカ含めて検討を行うこと。

資料 No.4-4 コメント のコンクリートの設計基準強度 F_c について、 21 N/mm^2 以上を推奨値として記載してよい。推奨する根拠を整理しておくこと。

(4) その他

次回開催日は別途調整する。

以 上